広報はりま　発行／播磨町役場　〒675－0182（個別番号）　兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号　TEL 079（435）0355　FAX 079（435）0609　編集／企画グループ　印刷／明光印刷
播磨町のホームページアドレス http://www.town.harima.lg.jp
〃 Eメールアドレス kikaku@town.harima.lg.jp

播磨ヒストリア

播磨町の歴史をひも解き、その時代にタイムスリップして、当時の出来事をエピソードを交えながら紹介します。

播磨町郷土資料館 館長補佐　宮柳 靖
☎079（435）5000

▲朝鮮通信使の行列写真（たつの市立室津海駅館）

エピソード 壱　見物船と朝鮮船があわや衝突！？

江戸時代は、幕府による鎖国のため、オランダと中国以外は国交がなかったと思われていますが、そうではありません。朝鮮や琉球とも交流がありました。オランダや中国が商人同士の「通商（貿易）」であったのに対し、朝鮮と琉球は、国と国との「通信（交流）」でした。なかでも朝鮮は、正式な外交関係を結んだただ一つの国でした。

通信は、「信（よしみ）を通（かわす）」ことで、〝信頼関係を深め合う〟という意味です。そのため、朝鮮通信使は、将軍が替わったときなどに12回日本に来ています。通信使の一行は、400人から500人ぐらいで、海上では大船団を組み、陸上では大行列となりました。

その船団が、播磨町沖を大阪に向かっていたときの様子が、御月見日記（おつきみにっき）に書かれています。延享（えんきょう）5（1748）年ですから、260年余り前のことです。

旧暦4月19日（今の暦では1ヵ月あと）は快晴で波も穏やかでした。室津（むろつ）（たつの市御津町）を出港した一行は、正午過ぎに播磨町沖にさしかかりました。30年ぶりの来日に遠くからも見物に訪れ、岸辺には子どもからお年寄りまで数千人の人たちが集まり、海上には多数の見物船が出ていました。色とりどりの旗をなびかせた朝鮮の船の上からは、鼓弓（こきゅう）や笙（しょう）の音色が聞こえ、太鼓を打ち鳴らす音が海面に響き渡っていました。見物船の中には、三味線をひく人もいてにぎやかだったようです。

この演奏に聞き入っていたのでしょうか、二子村の見物船が、朝鮮の船に近寄り過ぎてぶつかりそうになりました。先導していた役人のとっさの合図で、二子村の人たち7～8人は船に引き上げられ、船上で歓迎されました。他の見物船でも、通信使に字を書いてもらったり、まんじゅうやようかんなどをもらったりした人もいたようです。

使節団の来日にあたっては、道路や橋の修理、海上から見える家の建て替えなども禁じられました。さらに、見物人の礼儀作法についても厳しいお触れが出されました。しかし、宿泊先では役人たちも、通信使としてやってきた儒学者や医師、画家などと酒を酌み交わし、なごやかな雰囲気の中で文化交流をしていました。そのため、村人たちの熱烈な歓迎によるお触れを破る行為についても見逃していたようです。

町の人口 3月1日現在（住民基本台帳人口＋外国籍人口）
34,282人（＋38人）　男…16,826人（＋13人）　女…17,456人（＋25人）　世帯数…13,697（＋12）

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association